



造血幹細胞移植総合支援 プロジェクト事業

特定非営利活動法人がんサーネットジャパン
協働部署：がん・疾病対策課

活動

あなたの踏み出す一歩で、
救われる命がある。
「できることから始めよう。」

白血病に代表される血液がんの根治的治療法として、同種造血幹細胞移植（骨髄移植・末梢血幹細胞移植・臍帯血移植）が確立し、実際に治癒して社会復帰する者も増えてきている中、実際の提供に至る骨髄の提供者、社会的支援を確保し続けることは継続課題の一つです。

そこで、神奈川県内のドナー登録者や実際の提供に至る割合が増え、患者・家族の支援の輪が広がるとともに県民の造血幹細胞移植への関心と理解が深まることを目指して活動を続けてまいりました。ウェブサイトの記事や動画、イベントやドナー登録会の情報など様々な情報を提供するだけでなく、中高生や看護学生への講演、神奈川県内の医療機関・患者会と連携して「血液がんフォーラム」を開催しました。



◀ 血液がんフォーラム
2019の様子

Check !



<事業基本データ>

事業分野 保健、医療又は福祉の増進

実施期間 2018～2020 年度

負担金額 計 20,507 千円

成果

血液がんフォーラムは
協働終了後も定例イベントへ

活動開始当初は、企業内でのドナー登録会の機会獲得、県下の自治体へ訪問しての啓発、献血ルームでの広報、将来を担う中高生、看護学生への講演の機会を得ることで、一般市民への理解を得るための活動を進めてまいりました。また、新たに構築したウェブサイトでは、血液がんの患者さんやドナー登録者、支援者への情報提供を充実し、発信する情報は神奈川県内にとどまらず、幅広い支持を得ました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の流行を機に、活動の中心はオンラインとならざるを得ませんでした。

そのような中、2019 年より開始した血液がんフォーラムは、患者・家族・一般市民向けの血液がん

フォーラムとしては国内最大規模となり、オンライン開催となった 2020 年からは、国内外から多くの方が参加し、日々変化する最新の情報を届ける機会として、協働事業終了後も継続開催する定例イベントとなりました。

また、神奈川県との協働で開催できたことに対し、他の都道府県からも高い評価を得ました。



▲ オンライン血液がんフォーラム 2020 の様子



担当者の
コメント

理事・プロジェクトマネージャー
古賀 真美さん

協働事業のおかげで、このプロジェクトの立ち上げができたことに心から感謝しています。協働事業として基金 21 のお力添えを受けて活動した 3 年間で、予定通り活動の軸となるウェブサイトと、基本的な情報を構築できたことで、これから安心して活動を広げていけます。2 年目よりコロナ禍での活動となり、大幅な軌道修正をしなければならなかったことが多々あり困惑もしましたが、思い切ってオンラインイベントを実施したことにより、たくさんの恩恵も受けたと感じています。その都度、相談に乗っていただき、背中を押していただけましたこと、心よりお礼申し上げます。



▲ ウェブサイト「START TO BE」

協働

この事業での、最新の情報提供を目的としたウェブサイトの運営や、著名人やサバイバーにも参加していただいた血液がんフォーラムは、大変好評でした。今後もイベントや講演、ウェブサイトを通じた患者・家族・関係者への情報提供等の活動により、造血幹細胞移植の推進に向けた取組が広がっていくことを期待しています。

(がん・疾病対策課)

NPO
法人

特定非営利活動法人
キャンサーネットジャパン

代 表 者 理事長 岩瀬 哲

設 立 1991 年 6 月

住 所 〒113-0034
東京都文京区湯島1-10-2
御茶ノ水 K&K ビル2F

活動紹介 「がん患者が本人の意思に基づき、がん治療に臨むことができるよう、科学的根拠に基づく情報発信を行う」を団体の使命とし活動しています。



アクティブエイジ応援 プロジェクト

特定非営利活動法人横浜移動サービス協議会
協働部署：未来創生課（現 いのち・未来戦略本部室）、
高齢福祉課、特別支援教育課

活動 福祉人材の発掘のための 研修と実践機会の提供

【事業目的】

様々な動機から一歩を踏み出そうとしている人を応援し、アクティブエイジとして活躍する人材を発掘・育成します。

アクティブエイジとは、現役時代から本業以外でも活動したり、又は、リタイア後に積極的な社会参加を実践したりする人達です。

【事業概要】

○障がい理解の促進と障がい当事者目線でバリアを実践体験することを目的とした「障がい理解研修とバリア探検」

○プロジェクトで発掘された人材が様々な活動へ参加するサポートとして、「サポーターバンク」の構築と活動への紹介を行うマッチング

○アクティブエイジへの情報提供として情報誌「Active Age」の発行

○ボランティア同士の情報交換や交流機会としての「交流サロン」実施

○アクティブエイジの発掘・育成の場である「具体的地域」で、共生地域創りのためのネットワーク・協働に取り組み、拡大する基礎固め

Check !



<事業基本データ>

事業分野 保健、医療又は福祉の増進

実施期間 2018～2020 年度

負担金額 計 21,838 千円

成果 様々な年齢層、様々な人が参加 できる研修やイベントを実施

【障がい理解研修とバリア探検】

計 32 回、延べ 528 名参加。

バリア探検は、地域や店舗、商店街、イベントなど様々な場所において車イスや白杖の体験を行うことで、参加者にとって身近な場所でバリアを体感することができました。参加者も子どもから大人まで様々な年齢層、商業施設スタッフ、イベント主催者など様々な人が参加し、また、障がい当事者の方と一緒にすることで、交流の機会にもなり、障がい理解のよいきっかけとなりました。

【サポーターバンク構築と活動マッチング】

登録者 99 名

発掘・育成された人材に当会の実施する取組や地域ケアプラザの活動情報を提供し、希望者にマッチングを実施しました。

マッチングの例：特別支援学校の生徒の登下校の

通学見守り、地域ケアプラザの活動、当会取組の花時計プロジェクト/チャレンジコンサート/お出かけ企画などへの参加に結びつきました。

【アクティブエイジへの情報提供】

情報誌「Active Age」の発行(Vol.1～3)

セカンドライフを楽しみ、地域で輝く人々を紹介・応援する内容ですが、企業にも取材し、その企業や社員(アクティブエイジ)の社会参加活動も取り上げました。

【交流サロン】

計 11 回、延べ 124 名参加

ボランティア同士の交流に加えて、高齢者や障がい者が参加するコミュニティサロン(当会運営の「アペリティーヴォ(横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業)」へ参加し、高齢者・障がい者との交流も行いました。



▲バリア探検



▲情報誌
「Active Age Vol-1」



担当者の
コメント

副理事長
山野上 啓子さん

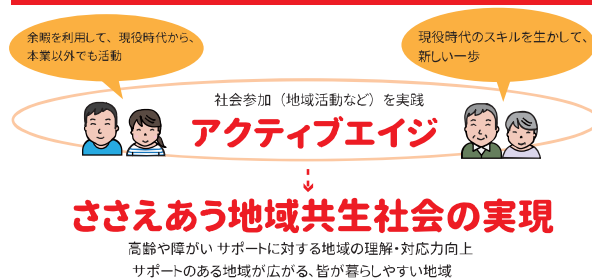
協働事業のメリットは多大でした。例えば各協働部署からの異なる目線でのご意見やご助言が活動方策を検討する上で大変有効でした。この事業活動を通じて、当協議会の活動を広くアピールすることができ、参加者や参加団体などとのさらなるネットワークの拡大を図ることができました。

アクティブエイジ応援は、例えば、戸塚での子供バリアフリー探検隊など、裾野の非常に広い層が参加して一緒に楽しく活動できる性格の事業で、様々な先入観を吹き飛ばすインパクトがありました。

様々な動機から一歩を踏み出そうとしている人を応援

アクティブエイジ応援プロジェクト

地域人材の発掘・育成



▲ プロジェクト概念図

協働

この事業は、現役世代や定年を迎えた方が、仕事や生活の中で培ってきた経験を活かして生き生きと暮らせるよう、地域活動に参画するきっかけとなる研修や実践の機会を提供し、人材の発掘・育成を行ってきました。

今後も、地域活動に生き生きと取り組む「生涯現役」を目指す人々を応援する取組が続くことを期待しています。

(いのち・未来戦略本部室)



特定非営利活動法人
横浜移動サービス協議会

代 表 者

理事長 服部 一弘

設 立

2004 年 10 月

住 所

〒231-0016
横浜市中区真砂町3-33 セルテ 11F
よこはま市民共同オフィス内

活動紹介

移動困難者である障がいのある方を中心に生活の質向上のため、住む、働く、学ぶ、余暇という目的を達成するために必要な「移動」の支援を提供し、移動にかかわる団体の支援や市民への啓発活動を行っています。



骨髄ドナー登録推進事業

神奈川骨髄移植を考える会

協働部署：がん・疾病対策課

活動

骨髄バンク、骨髄ドナー登録に対する普及啓発

【目的】県民の健康を守りQOL(生活の質)の向上を目指し、骨髄移植、骨髄ドナー登録を推進し、白血病等がん患者や家族への支援をします。特にこのところのドナー登録者の減少傾向と高齢化に歯止めをかけることを目指しています。

【事業1】骨髄ドナー登録説明員養成講座・ドナー登録事業

骨髄ドナー登録に必要な説明員養成講座を開催し、講座修了者の中から日本骨髄バンク認定説明員を雇用し、骨髄ドナー登録を実施しました。なお、説明員の雇用には、がん患者を優先し、生活の自立と社会復帰の促進に繋がりました。

【事業2】骨髄バンク推進普及啓発事業

若い世代に骨髄バンク、骨髄ドナー登録に対する普及啓発とドナー登録の推進を図り、登録者の増加に繋げるため、コンサート、シンポジウム、セミナー等の開催とホームページ等を活用したドナー登録、イベント情報の提供を行いました。

【事業3】協力団体開発事業

基金 21 終了後も事業を継続するため、協力団体の開拓を図るための企業、団体等との仕組、ネットワークづくり、及びグッズの開発と販売、チャリティイベントの企画、機関紙、ホームページ等での広告掲載等の事業を行いました。

Check !



<事業基本データ>

事業分野 保健、医療又は福祉の増進

実施期間 2018～2020 年度

負担金額 計 11,362 千円

成果

コロナ禍でも Zoom を利用しての講習会を開催

【事業1】養成講座

4コース開催し(2020 年はコロナ禍で中止)32 名が終了し、内 16 名が会員となり説明員として活動しています。3年間でドナー登録会は、献血ルームでは 95 回開催し、説明員延べ 252 名従事、登録者は 906 名で、献血バスでは 140 回開催し、説明員延べ 440 名従事、登録者は 1,534 名で、併せてドナー登録者 2,440 名と大きな成果を上げることが出来ました。また、養成講座により説明員の若返りと大学での献血併行型ドナー登録会が増えたことにより若い世代の登録者の増加がみられました。更に説明員として優先的に雇用したがん患者から、生活の自立と社会活動に前向きに取り組めるようになったとの声がありました。

【事業2】医療講演会 & シンポジウム

2018 年9月 16 日かながわ県民センターで開催しました。最初の医療講演は東海大学医学部教授の矢部普正先生、シンポジウムは骨髄提供経験者

でもある俳優の木下ほうか氏と移植経験者の池谷有紗氏、司会は全国骨髄バンク推進連絡協議会顧問の大谷貴子氏で進められました。木下さんはドナーとなって嬉しさを感じたと、池谷さんは「逝きそうになっていた私の手を、顔も知らないドナーさんが手を掴んで地上にもどしてくれた」と、体験者の貴重なお話に笑いあり涙ありの会となり、200名ほどの参加者は、それぞれいろんな思いを持ち帰られたと思います。参加者のアンケートからも好評で有意義な会であったと伺われます。

骨髄バンク推進クリスマスコンサートを2019年12月22日横浜東口そごう前で開催しました。ハンドベルとゴスペルの響きに乗せて、骨髄バンクと骨髄ドナー登録の推進についてのPRを行いました。当日はクリスマスを間近に控え、買い物客や子ども連れのご夫婦など多くの方が立ち止まって耳を傾けてくださりコンサートを楽しんでいただきました。楽しいイベントと普及啓発のコラボは残念ながら2020年はコロナ禍で中止となりました。



◀ドナー登録会の様子



担当者の
コメント

会長
村上 忠雄さん

ドナー登録説明員養成講座の終了者の中から、様々得意分野を持った若い世代の会員が入会し、ドナー登録は元より新しい感覚で活動にチャレンジし多様で幅の広い活動ができるようになりました。

3年目の最後 2020 年はコロナ禍でドナー登録会を除き多くの事業は中止または延期となりました。その中で今まで体験したことのない Zoom を活用して会員向け広報用動画の講習会を開催し、会員がそれぞれテーマを絞った作品を作成してホームページへアップしました。また、プロバイダーに講師を依頼しホームページの講習会を開催し、見やすく使いやすいホームページにリニューアルしました。



▲ Zoom の活用の様子

協働

登録会での説明員の活動や、イベント等の普及啓発活動により、多くの方に骨髄ドナー登録をしていただきました。ドナーとなることができる方には年齢制限があるため、若年ドナー登録者が増えたことは大きな意義があります。今後も関係機関と連携しながら普及啓発活動を続けられ、登録者数が増加することを願っています。

(がん・疾病対策課)

任意
団体

神奈川骨髄移植を考える会

代表者

会長 村上 忠雄

設立

1990 年 6 月

住所

〒254-0042
平塚市明石町 24-25-309
黒部設計内事務所内

活動紹介

骨髄バンクについての普及啓発、骨髄ドナー登録の普及促進、血液疾患患者さん及び患者家族の支援、チャリティコンサート、会報「虹」の発行等の活動を行っています。移植を望むすべての患者さんがチャンスに恵まれますようにと願いつつ。



湘南ワンハンドレッドプロジェクト

特定非営利活動法人湘南スタイル

協働部署：未来創生課（現 いのち・未来戦略本部室）、
湘南地域県政総合センター

活動

現役時代からはじめる、 人生 100 年のリデザイン

湘南を中心とした地域のフィールドを舞台に、世代や属性を超えて人生 100 年ライフを学びあう仕組みづくりに3つのプロジェクトを通して取り組んでいます。

【まちのキャリアラボ】は、100 年ライフをわくわく過ごしたい現役世代の「試しにやってみる」を後押しする場づくり、機会づくりを行っています。活動メンバーは自身もキャリア/ローカルシフトの「第一歩」を踏み出し始めた現役世代であり、自分らしい 100 年ライフを模索する現役世代が新たなポートフォリオを描くコーディネイトをしています。

【湘南ワンハンドレッドクラブ】は、100 年ライフを自分らしく豊かに暮らしている人を「ロールモデル」＝「マイレジェンド」とおき、その人の発掘・取材（対話）を通して、これからの生き方・暮らし方をアップデートします。みんなの「やりたい」「マイテーマ」を起点に、繋がる多世代型協働プロジェクトのはじめの一步を支援しています。

【企業人の越境プログラム】は、企業人に対して、地域のローカル＆ソーシャルなプロジェクトの参画機会を提供するためのプログラムと仕組みづくりを行っています。このプログラムを企業に対し、人材育成や事業開発の機会として提供することで、

Check !



<事業基本データ>

事業分野 まちづくりの推進

実施期間 2018～2020 年度

負担金額 計 20,687 千円

一人ひとりが地域のフィールドを活用した 100 年ライフの働き方を発見する機会を創出することを目指しています。



▲ キャリアラボの様子



▲ 越境プログラムの様子

成果 インタビューによって、様々な人の生の声を聞く機会の提供

まちのキャリアラボでは 2020 年度には 19 名がメンバーとして活動。うち 10 名はレギュラーメンバーとして、定例ミーティングやイベントへの参加やサポート、9 名がイベント企画を担いました。総イベント回数は 25 回。延べ 175 名が参加し、14 名の方のインタビュー記事を作成しました。

湘南ワンハンドレッドクラブでは、36 名がメンバーとして活動し、うち 23 名がインタビュー記事の作成に携わり、取材班 7 名、ライティング班 5 名、撮影班 6 名、Web 実装班 5 名と、それぞれのスキルを活かして合計 38 名の方のインタビュー記事を作成しました。

企業人の越境プログラムでは、ディスカッション・ヒアリングした企業・団体は 21 社。メーカー、通信、人材、IT、NPO など、幅広い業界からの生の声を聞き、プログラムの開発に臨みました。



担当者のコメント

代表理事
渡部 健さん

当プロジェクトを通して、湘南エリアで活躍する幅広い世代のさまざまな属性を持つ方と知り合うことができ、その人との出会いが団体の貴重な資産となりました。協働部署の方と連携できたことも、とても貴重な体験でした。

協働

この事業は、人生 100 歳時代における人生の充実を図るため、現役世代がこれからの生き方・暮らし方を考えていく取組や学び合う場の提供、コーディネートなどを行ってきました。

今後も、現役世代が人生 100 歳時代の生き方について考え、一人ひとりが自分らしい人生 100 歳時代を描くことができるような支援を期待しています。

(いのち・未来戦略本部室)



▲ 湘南ワンハンドレッドクラブ

NPO
法人

特定非営利活動法人
湘南スタイル

代表者 代表理事 渡部 健

設立 2005 年 6 月

住所 〒253-0044
茅ヶ崎市新栄町 13 番 48 号
ワラシナビル5階

活動紹介 「想いをつなげる カタチにする。」をテーマに、メンバーそれぞれの想いをもった活動が継続できる仕組みづくりに取り組んでいます。



ノヴィーニエ 「こども食堂&こども寺子屋」 NPO 法人アフリカヘリテイジコミティー

活動

「食・絆・学」をテーマにした こどもの居場所づくり

貧困・孤食・外国人家庭の社会的孤立等、様々な生きづらさを抱えている子どもたちがいます。近年では、子どもの居場所の減少も問題となっています。

当事業では、国籍を問わず子どもたち、保護者、シニアの方々を対象に「食・絆・学」をテーマに地域の居場所づくり、現状における課題を視野に入れた社会教育活動・多文化共生を意識した子どもの健全育成に取り組みました。

「こども食堂」では食事の大切さや楽しさを伝えるとともに、食を通しての異文化理解の促進にも取り組み、「こども寺子屋」では異文化体験・語学・図工・科学・音楽など様々な要素を組み込んだプログラムを構築し、子どもたちの学習意欲の向上や視野を広げることにつながるよう体験的活動の場を提供しました。

コロナ禍では、お弁当・工作キット・食料品の無料配布に切り替え、特に収入減少や失職で経済的に困窮した家庭の支援を行うため、活動を継続して実施しました。

Check !

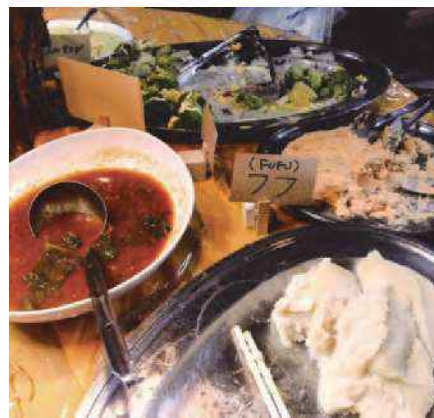


<事業基本データ>

事業分野 子どもの健全育成

実施期間 2018～2020 年度

補助金額 計 1,800 千円



▲ こども食堂・アフリカ料理フフとオクラシチュー



▲ こども寺子屋・工作作品

成果

食事提供支援の持続可能な体制基盤を構築

相模原・横浜で月4回開催、食事の無償提供を行いました。コロナ前の通常開催時では平均参加者数は相模原 60 名・横浜 42 名でした。コロナ禍ではお弁当一人2パックを配布、1回平均 150 食分(300 パック)を配布しました。特にコロナ禍において経済的困窮家庭での食事の回数・量の減少、栄養面での質の低下が心配される中、定期的なお弁当・食料品の配布により、子どもたち及び子育て家庭の食事面の安定・心身の健康維持のために貢献することができました。

また、安定した支援を継続していくためには「社会で子どもを育てる持続可能な仕組みづくり」が大きな課題でしたが、この3年間の中で他団体・企業・大学・行政・地域店舗・農家など様々な連携体制の構築・運営体制の強化に取り組むことができました。それにより、支援者の増加・安定した食材提供体制・ボランティアの増員等につながり、持続可能な体制の基盤を構築することができました。



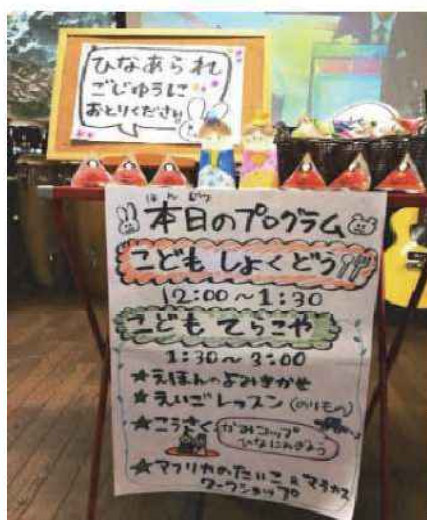
担当者の
コメント

理事長
トニー・ジャスティスさん

基金21の補助金を3年間得たことで、課題とされていた持続可能な仕組みづくり・ネットワークの構築に注力することができ、「社会で子どもを育てる」環境づくりを前進させることができました。そこで構築した支援のネットワークは活動地域のみにとどまらず、日本各地・海外の方々からもご支援をいただき、皆様からの応援の気持ちを子どもたちに届けられたことを嬉しく思っています。



▲ こども食堂・お絵かきコーナー



▲ こども食堂&寺子屋プログラム(2月)

NPO
法人

NPO 法人
アフリカヘリテイジコミティー

代 表 者 理事長 トニー・ジャスティス

設 立 2009 年 4 月

住 所 〒252-0231
相模原市中央区相模原5-11-3
きめたハウジング第5ビル

活動紹介 「こども食堂&こども寺子屋」事業
・国際文化交流フェスティバル事業
・アフリカでの「学校をつくろうプロジェクト」に取り組んでいます。



人材育成 仕事と子育て両立体験 研修事業「家族シミュレーション」

特定非営利活動法人びーのびーの

活動

子育て支援の立場から発信する、
誰もが働きやすい職場環境づくりを
目指すための体験型人材育成研修
を開発

若者対象に子育て支援施設を活用して未就学児の子育てを疑似的に体験実施し、体験前後の学び、ワークショップを通して、自分自身の就労意識や働き方、企業内における子育て家庭のサポートの在り方などを見つめる人材育成研修の開発に取り組みました。

事業立案当初は、実際に家庭での育児体験を実施し、第三者の家庭、子どもに触れる体験をメインにしたプログラムを検討し実施しましたが、コロナ禍により、体験の在り方やワークショップの内容なども変更しました。日頃団体が取り組む子育て支援の課題の源流を、親の置かれた職場環境に目を向け、子育てする人が働きやすい職場環境づくりから改善できるよう、企業人事経営層にも向けて実施できる研修として開発を行っています。

Check !



<事業基本データ>

事業分野 子どもの健全育成

実施期間 2018～2020 年度

補助金額 計 2,580 千円



▲ 展示イベントの様子



▲ 2年目ぷろぐらむ

成果

企業アプローチの支援 全国的なイベントにも参加

初年度から、仕組みの一つとして、有識者によるアドバイザー会議を構成し、サポートを受け、NPO だけでは取り組めない企業アプローチの支援を受けることができとても有効でした。初年度は、社会人参加者 11 名が7家庭にて、延べ 15 回の育児体験に参加し、その後、関係者へのヒアリング調査実施、結果をまとめ報告会を実施しました。(参加者 56 名)

二年目には、社会人 17 名が延べ 20 回の育児体験に参加しました。企業訪問を積極的に行い、全国的な展示イベントに参加し、企業内研修を 1 社実施しました。

最終年度は、コロナ禍の影響を受け、事業の仕組みを変更、動画教材を制作、オンライン講座を2回実施し、参加者は 24 名。動画教材は、今後企業研修に活用できる成果物となりました。対外的には、2020 年度キッズデザイン賞を受賞、令和3年度横浜市発行の「ふくまちガイド」(横浜市福祉のまちづくり推進指針改訂版)に事例紹介をいただくことができました。



▲ 3 年目成果物



▲ 第 14 回キッズデザイン賞



担当者の
コメント

担当
畑中 祐美子さん

公費から補助金をいただく責任は重く、説明責任としての会計管理は大変でしたが、神奈川県補助事業であるというタイトルがあることで、企業訪問して事業紹介するときに、とても信頼をいただくことができました。行政のバックアップをもらって、NPO としての独自の活動のアピールができることはとても意義深く、ぜひ皆様もご活用いただけたらと思います。

NPO
法人

特定非営利活動法人
ビーのびーの

代 表 者

理事長 奥山 千鶴子

設 立

2000 年 2 月

住 所

〒222-0037
横浜市港北区大倉山 2 丁目 7-47
シャトレ大倉山 103

活動紹介

NPO 法人ビーのびーのは 0123 歳児と親のためのもうひとつの家として、親子のつどいの広場事業の運営からスタートした子育て支援団体。地域子育て支援拠点・認可保育所運営・情報出版事業などを通して、多世代が関わり、創立時から変わらない「地域で共に育ち合う子育て環境づくり」のために活動しています。